

平成27年度市自委第6号協働パイロット事業  
「障がい児・者が専門機関から地域歯科医院へ  
円滑に移行できるために」

NPO法人ホスピタル・プレイ協会  
すべての子どもの遊びと支援を考える会



## I 事業の趣旨・目的

### 1. 趣旨

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（以下 HPS）は、遊びを用いて病気や障がいのある人々に「やさしい医療」を提供する英国生まれの専門職である。NPO 法人ホスピタル・プレイ協会では、日本における HPS の唯一の職能団体である。HPS は、全国の子ども病院などで勤務し、子どもにやさしい医療の実現のため、小児医療チームの一員として日々活躍している。処置や検査に対して恐怖心や不安を抱く子どもたちの療養環境を改善する支援を行い、その結果、医療とかかわる子どもたちが医療に対する信頼を持ち続けることができている。当法人ではこれまで日本で唯一の HPS の養成校である静岡県立大学短期大学部と協働し、医療の中にホスピタル・プレイを取り込む支援の普及と啓発を行ってきた。

昨年度の協働パイロット事業『障がい児・者に対するやさしい歯科治療を実現させるために』では、障害福祉課、健康づくり推進課と協働し、障害者歯科保健センター（歯科センター）において HPS による障がい児・者にやさしい歯科医療モデルを展開し、歯科分野における医療環境の改善に取り組んできた。障がい児・者の歯科医療の受診を円滑に行う事業を実施して得た知見として、歯科診療所の環境が障がい児・者には、過度の緊張や恐怖を与えることがわかった。当法人は、障がい児・者専門歯科医療機関の環境を障がい児・者や家族にやさしい環境の整備に取り組み、歯科センタースタッフとの協働関係を通じて多職種が連携し、直接、患者に対して「遊び」などを用いて緊張を緩和し、不安感や恐怖心を軽減することにより、円滑な歯科医療受診への支援を提供することもできた。

しかしながら、地域の歯科医院では上述のような治療が行われているとは言いがたい状況にあると思われる。専門機関である歯科センターの慢性的な混雑状況の改善と早期に歯科治療を行うことでの障がい児・者の負担軽減のため、今年度は『障がい児・者が専門機関から地域歯科医院へ円滑に移行できるための協働パイロット事業』を企画した。

また、静岡市障がい者歯科保健推進会議（静岡市主催）にて、平成 27 年 10 月より静岡市静岡歯科医師会が運営する歯と口の保健医療センター（救急歯科センター）で歯科センターの患者で協力度が向上し、地域歯科医院を受診することが可能であると思われる患者を対象として「障がい者歯科地域移行支援事業」が計画され、この事業にホスピタル・プレイのノウハウを活用することで、地域歯科医師会、歯科センター、行政、NPO が協働し、障がい児・者専門の歯科医療機関から、地域歯科医院への移行を円滑に進めることができると考えた。

さらに、地域歯科医療機関のスタッフに対しても障がい児・者へのやさしい歯科治療の支援方法などを直接アドバイスすることもできると考える。

### 2. 目的

地域歯科医師会、行政、歯科センター、NPO 法人ホスピタル・プレイ協会の協働により障がい児・者が専門機関である歯科センターから、自宅近くの地域の歯科医院へ安心

して円滑に移行できる。

## II 事業概要

- (1) 事業期間 平成27年10月から平成28年3月まで
- (2) 実施箇所 歯と口の保健医療センター（救急歯科センター）  
移行先の地域歯科医院

## III 実施スケジュールと実施内容

### 1. 現状把握（10月）

- ① 障害者歯科地域移行推進事業の概要を把握する
- ② 救急歯科センターの環境を把握する

### 2. 実施（10月から3月）

月1回、救急歯科センターで行われる診療日に支援を行う

#### (1) 障がい児・者への個別対応

- ① 初めての環境・初めての地域の歯科医療スタッフとの出会い・診療に不安なく望めるよう、救急歯科センターにて歯科受診適応トレーニングを個別に実施する
- ② 救急歯科センターから地域歯科医療機関に受診できるようになるための地域移行トレーニングを個別に実施する

#### (2) センタースタッフ・救急歯科センタースタッフ・移行先地域歯科医院スタッフとのチームとしての関わり

- ① 救急歯科センター会議室でのトレーニング診療前後のミーティングに参加
- ② 移行先歯科医院にて医療スタッフとのトレーニング診療前後のミーティング実施

#### (3) 受診を促進するツールなどの開発と作成

- ① 救急歯科センター・移行先地域歯科医院のプレパレーション用写真ブック作成
- ② 個別のソーシャル・ストーリーブック作成
- ③ 患者への遊びを用いたアプローチのための情報収集とツールの準備

#### (4) 事業成果指標の作成（H28.4月）

- ① 患者および家族の満足度調査
- ② 地域歯科医師への調査
- ③ 歯科センター・救急歯科センター医療スタッフへの調査

#### (5) 地域歯科医療従事者研修（10月16日）

### \*倫理的配慮

救急歯科センター・移行先歯科医院における写真の掲載については患児保護者に対し、口頭と文書により説明し、プライバシー厳守を約束し、了承を得た。

#### IV 実施の結果

4歳児（自閉症）・8歳男児（ダウン症）・10歳男児（ダウン症）・15歳男子（自閉症）・22歳男子（ダウン症）・39歳女子（ダウン症）6名の障がい児・者を対象者とした。毎回、救急歯科センターの会議室にて、歯科センターの歯科医師・歯科衛生士、救急歯科センターの歯科衛生士、地域の移行先歯科医院の歯科医師・歯科衛生士とHPSが連携し、個々の患者にとって最善の方法で地域移行が進むように話し合いを診療の前後におこなった。救急歯科センターでは、地域の移行先歯科医師と患者の顔合わせも兼ねた診療トレーニングを重ね、地域移行が段階を踏んで進められるよう取り組んだ。歯科センターの医師が最初に診療を行い、次に地域の移行先歯科医院の歯科医師・歯科衛生士が診療を行った。HPSは患者の反応を見ながら、無理なく担当歯科医師の交代が出来るように支援を行い、それぞれの職種が専門性を活かしながら協働することができた。

HPSの支援は本人の興味のある遊びや物を用いて、信頼関係を築き、個別のソーシャル・ストーリーブックを作成し、プレパレーションや振り返りとして用いた。また、初めての環境・初めての人達への不安が軽減できるよう救急歯科センター内や移行先歯科医院内を作成した「写真ブック」や院内見学にてプレパレーションを行った。

##### 事例1

##### 8歳男児（ダウン症）A児

歯科センターでは、診療も協力的に出来ていたが、含嗽がうまく出来なかった。また、言葉がはっきりしないことが多くあった。11月よりトレーニングをスタートし、A児の好きな「妖怪ウォッチ」のキャラクターファイルを作成してアプローチし、信頼関係を築き、救急歯科センターの環境と地域の移行先（多田歯科医院）の歯科医師・歯科衛生士を写真ブックにてプレパレーションした後、多田歯科医院の歯科医師・歯科衛生士を児と家族に紹介した。A児は、受け入れたのか自分の歯ブラシを医師に手渡した。その後診療室にて慣れ親しんでいる歯科センター歯科医師・歯科衛生士よりの診療。続いて、多田歯科医院の歯科医師・歯科衛生士の診療と交代して行われた。A児は少し緊張した様子は見られたものの協力的に診療を受け入れていた。その後1月に2回目のトレーニングを実施。待合室にてソーシャル・ストーリーブックにて前回の振り返りと今から行うことのプレパレーション実施。多田歯科医院の歯科医師・歯科衛生士からの診療も緊張は多少見られるものの含嗽も促すと上手に出来た。終了後は大好きな「妖怪ウォッチファイル」を見て、落ち着いて帰院した。3月に、初めて多田歯科医院を受診した。待合室でソーシャル・ストーリーブックにて振り返りと多田医師の確認をした後、多田歯科医院の環境を写真ブックと院内の見学にてプレパレーションを実施した。その後の歯科衛生士からの処置や歯科医師からの診療時に緊張のせいか、手が上に上がったり、口が閉じてしまったりする様子が見られたため、声掛けしたり「妖怪ウォッチ」ファイルにてディストラクションを行った。終了後、母は、児の緊張があるため、次回もHPSの同行を希望した。

HPS は地域移行において患者・家族の不安がなくなるまで何度でも同行して支援を続ける気持である。今回の事業においても地域の移行先歯科医療スタッフ、救急歯科センタースタッフ、歯科センタースタッフ、HPS と連携したチームとしての関わりが障がい児・者や家族にとって安心できる体制で円滑に地域移行が進んだのではないかと確信する。

## VI 協働・協力機関

静岡県障害者歯科保健センター

歯と口の保健医療センター（救急歯科センター）

地域歯科医療機関

## VII 担当スタッフ

- (1) 事業総括：松平千佳 静岡県立大学短期大学部 社会福祉学科 准教授、HPS 養成事業責任者／NPO 法人ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会 理事長
- (2) トレーニングスタッフ：中山陽子 NPO 法人ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会 ホスピタル・プレイ・スペシャリスト 在宅支援部門スーパーバイザー
- (3) その他（事務担当）：南 伸予／NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 事務長大長 由妃子／静岡県立大学短期大学部 HPS 事務局

### \* 添付資料



ソーシャル・ストーリーブック

#### ソーシャル・ストーリーブックの定義と目的（1993年グレイ）

##### 定義

ある特定の状況・技術・概念について一定の決まった様式に従い、一般的に求められる反応・理解・行動の在り方について説明するもの

##### 目的

対象者が、求められる行動・反応について、たやすく理解出来る事  
辛抱強い姿勢で、かつ支援的・肯定的な方法を通して理解してもらうことにある



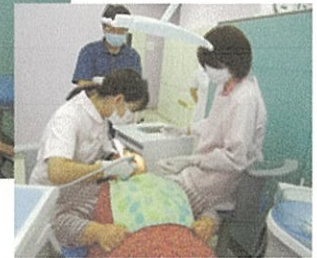
地域移行に向けてのミーティング



救急歯科センター待合室  
HPSからのプレパレーション



歯科センター医師による診療



地域の歯科医師・歯科衛生士による診療



移行先歯科医院待合室  
HPSからの写真ブックによる  
プレパレーション



移行先歯科医院での診療



移行先歯科医院待合室  
終了後出来たことを認める